

ご存じですか！文化財

66

「庚申塔石仏」

市指定有形民俗文化財 昭和61年12月8日指定



問合せ
生涯学習課
(0480)62・1223



所在地 琴寄2841

この庚申塔は、琴寄後川の地にある塞神社にまつられています。造立は寛文11(1671)年11月で、造立者は伝右衛門ほか7人、台座に三猿があり、本尊は腕6本の青面金剛が普及する以前の珍しいものです。

庚申信仰は、干支の庚申の夜に行われる信仰行事です。道教の教えには、人の体には三戸の虫がいて、庚申の日の晩、人が睡眠中に体から抜け出し、天帝に当人の罪を報告し、その軽重によって寿命が変えられ、重い場合には死に至らしむとあります。このため、庚

申の夜には、三戸の虫が体から抜け出さないように徹夜するという風習になりました。この行事は、江戸時代になると、庶民まで広まり、その夜には、勤行、宴会をしながら過ごしました。また、庚申待ちを連続して3年間行い、18回目に諸願成就の記念として庚申塔を建てるが多かったようです。

現在では、庚申様の集まりと称して、3月と8月の年2回、13軒の各戸1人が参加し、塞神社のお座敷で昼食をとりながら懇親を深めています。この石仏は、庚申信仰を知る上で大変貴重な資料となっています。



紹介者 小沼 良市さん(旗井)